

— ご使用上の注意 —

安全にご使用いただくために必ずお読みください。

- ◆ 必ずタイヤに装着してから加熱してください。
タイヤを装着せずに加熱するとサーモスタッドが正常に動作せず故障の原因になります。
- ◆ 誤った使用方法は、ケガ・火傷・死亡事故の原因になります。使用時は必ずゴム手袋をご使用ください。
- ◆ 感電の恐れがありますのでタイヤウォーマーおよび付属の電気機器は絶対に水につけないでください。
- ◆ 万一の事故に備え、誰もいない状態で使用しないでください。
- ◆ 機器に何らかの破損の恐れがある場合は使用しないでください。
また、使用中に何らかの異常が見受けられた場合にはすぐに使用を中止してください。
- ◆ タイヤを温める目的にのみ使用してください。
その他、本来の使用目的とは異なる使用方法は絶対に行わないでください。
- ◆ ヒート部分（温かくなる部分）を束ねる、折り曲げる、二重巻きにする等のご使用は異常な発熱や感電、タイヤウォーマーの破損の原因になります。
- ◆ 適正なサイズのタイヤにご使用ください。
- ◆ 初めのご使用の際には水蒸気、多少の臭いがでますが使用上に問題はございません。
- ◆ サーモスタットの作動はご使用時の気温により異なります。
冷えた状態からのご利用時は、赤のインジケータが消灯しても適正温度には達していません。
インジケータが消灯してから 30 分程度の加熱をお勧めします。
30 分程度加熱後は、点灯状態であっても適正温度に加熱しております。
長期間のご利用や気温によって、まれにサーモスタット作動しないことがございます。
長時間の加熱は機器やタイヤを傷つける恐れがあるため随時、ご確認ください。
- ◆ タイヤウォーマーを外す際は必ず電源をお切りください。
電源を入れたままのタイヤウォーマーを取り付け・取り外しは厳禁です。
ご使用時はケガ・火傷などには十分にご注意ください。
- ◆ アイドリング状態では使用しないでください。

誤った使用方法での事故、破損等について、当店では一切責任を負いかねます。

【 デジタルコントローラー初期設定 】

初期設定はタイヤウォーマーへ接続せずに行ってください。



1. デジタルコントローラーのコンセントをしっかりと奥まで差し込んでください。
液晶に【 LLL 】が表示されるまでお待ちください。



2. ▲と▼を6秒間、同時押ししていただきますたら摂氏【 °C 】・華氏【 F 】を選べます。
表示されましたら、▲で選択が可能です。
(初期設定は摂氏【 °C 】となっております)



※摂氏【 °C 】・華氏【 F 】の選択画面

3. 【 LLL 】が表示されている状態でⒻまたはⒼを押すと設定画面が表示されます。
▲で設定温度が上がり、▼で設定温度を下げる事が出来ます。
タイヤウォーマー接続時に設定温度になるとパイロットランプが消灯し温めを停止します。
また設定温度以下になるとパイロットランプが点灯し自動的に温めを再開し設定温度を維持します。
(初期温度は【 80℃ 】となっております)



※フロント (F) の温度を設定している画面

4. 設定温度が決まりましたら【 LLL 】が表示されるまでお待ちください。
液晶が【 LLL 】の点滅に変われば設定完了です。



【 デジタルコントローラー補正温度の調整 】

この設定は通常、設定する必要はありません。

コントローラーの表示温度と実タイヤの温度に差があり、どうしても気になる場合は調整をご利用ください。

- 補正温度の調整方法について
温度が表記された状態でⒻまたはⒼを押すことで、設定温度の許容範囲を調整する設定画面になります。
- 補正温度の調整範囲について
補正温度の調整範囲は【 -10.0 ~ +10.0 】から調整が可能です。
- コントローラーの補正值による温度の変化について
【 -10.0 ~ 0.0 】に設定した場合は、コントローラーの表示温度より最大【 10℃ 】**低く**温度を表示します。
【 0.0 ~ 10.0 】に設定した場合は、コントローラーの表示温度より最大【 10℃ 】**高く**温度を表示します。



※フロント（F）の補正温度を調整している画面

【 コントローラー無しのタイヤウォーマー 】

コントローラー無しのモデルは各端子を接続するだけでお使いいただけます。

- 設定温度について
使用環境により約 80℃~100℃前後の過熱となります。
(サーモスタット機能により、過熱を防ぎながら一定の温度を保つために自動で加熱と停止を繰り返します)